

【給食協会賞】給食時間で見られたフードロス問題

丈山小学校 岩村 咲南

普通の生活ができない世の中になり、今年で三年目になります。学校も休校になり、さみしい時間を過ごしました。学校がはじまりましたが、密にならないようにする学校生活。

私が毎日楽しみにしていた給食の時間も、きまりがたくさん作られました。むかいあわずに全員前をむいて食べることに、話をせずに食べるもく食をすること。お友達やクラスメイトとおしゃべりしながら食べる事が楽しみだった私にとって、とても悲しいことです。それでもみんなのため自分のため家族のためを思い、きまりを守ることを努力しています。

欠席者が多くなった時の事、給食がたくさん余っていることに気付きました。人気のおかずは、じゃんけんになるけれどパンがとても余ってしまいうけいこうにあります。その時、「フードロス」という言葉が頭にうかびました。給食がなくなり、大量の牛乳がはいきさされているというニュースが連日ながれていたので、私はフードロスについて調べる事にしました。フードロスとは、売れ残りや食べ残しにより、本来食べられるはずの食品がはいきさされているという事です。フードロスが多くなる事で、かんきょうな負担や食料不足に苦しむ人が多くなることもあるそうです。この問題はSDGsでも世界中が解決すべき課題の一つとしても取り上げられています。調べていくうちに、給食が余ってはいき

される事はとても大きな問題だと思いました。

私にできることは何だろうと考え、おかわりをしたくさん食べ、できるかぎり余りをなくすことにしました。私はパンが大好きです。給食のメニューをチェックしてパンが出る時は、楽しみが倍になります。その大好きなパンから、余りを減らす事を考えて今、おかわりをしています。私ができる事は小さな事です、クラスのみんなで声をかけ合い、学校全体に広がり、家族に伝わり、少しでも多くの人がフードロスについて考えられるといいなと思います。